

【12月ミニセミナー開催報告】 合格・目標達成の鍵は「やらない勇気」にあり！

～「捨て問」の見分け方と試験戦略～

12月のミニセミナーでは、入試や定期テストにおける重要な戦略である「捨て問（すてもん）」について特集しました。「テストは全部解かなくてはいけない」と思っていませんか？ 実は、高得点や合格を勝ち取るためには、あえて「解かない」と決める判断力が非常に重要です。セミナーでお伝えしたエッセンスを詳しく共有します。

1. なぜ「捨て問」が存在するのか？

入試やテストは、生徒の実力を正確に測るために「100点も0点も取らせない」ように作られています。誰でも解ける問題から、誰も解けないような難問までを散りばめることで、平均点が6割程度になる「正規分布」を目指して作問されます。つまり、テストの中には「満点を防ぐための超難問（＝捨て問）」が意図的に含まれているのです。これに時間を使いすぎると、本来解けるはずの問題を落としてしまうリスクがあります。

2. 「捨て問」の見分け方 2つのポイント

では、どの問題を捨てるべきなのでしょう？

- ① **基礎・標準を固めて「違和感」に気づく** 普段から基礎・標準問題を徹底的に練習しておくことが最大の対策です。「いつも通り」ではない、「見たことがない」「手掛かりが全く掴めない」と感じる問題があれば、それは他の受験生も解けない「捨て問」である可能性が高いです。
- ② **「時間」で区切る** 試験中に見分けるのが難しい場合は、時間でルールを決めます。例えば「2～3分考えて手が動かなければ飛ばす」と決めておきましょう。数学などの応用問題でも、1問にかけられる時間は限られています。深追いは禁物です。

3. テストの種類別・得点戦略

目標によって「捨て問」の扱いは変わります。

- **入試・実力テストの場合（合格点狙い）** 合格ラインは多くの学校で6割～7割です。満点は不要です。過去問演習などの復習では、問題を以下の3つに分類しましょう。
 - **（できた）**：自信を持って解けた問題。
 - △ **（惜しい）**：途中までできた、ケアレスミス、解説を読めば理解できる問題。
 - × **（無理）**：手も足も出ない、解説を読んでも理解できない問題。 **合格の鍵は「×」ではなく「△」を本番で解けるようにすることです。**「×」は勇気を持って捨て、「△」の復習に時間を使いましょう。

- 定期テストの場合（目標点別）

- 90点～満点狙い：捨て問なしで、難問までチャレンジ。
- 平均+ α 狙い：一番難しい応用問題は最初から捨てて、それ以外を完璧にする。
- 平均点狙い：応用問題は捨て、基礎問題の見直しに時間を使い、計算ミスなどを防ぐ。

4. 【重要】マークシートの「ズレ」に注意！

問題を飛ばす際、最も恐ろしいミスが「解答欄のズレ」です。1問飛ばしたつもりが、その後の回答がすべて1段ずつズれてしまい、不合格になってしまった.....という事例は実際にあります。お子さんには、「飛ばすときは、問題用紙に大きく印をつけ、マークシートには仮の印をつけるか、絶対に間違えないように指差し確認をする」よう、口酸っぱく伝えてあげてください。

5. 勉強のヒント：予習のススメ

もし、お子さんが「授業がわからない」「復習しても理解できない」という状態であれば、「予習」を取り入れてみてください。理解度が低い状態で復習をするよりも、教科書をざっと読んだり、学習漫画を読んだりしてから授業に臨むだけで、理解度が劇的に上がり、結果的にテスト勉強の時短になります。